

進捗状況の概要

事業計画に沿って概ね順調に計画を推進している。以下に、進捗状況の概要を記載する。

(1) 4年間の体系的・組織的アクティブ・ラーニング改革

本事業では、全学部・学科で体系的なアクティブ・ラーニングの教育プログラムとして構築することを目的としている。一部の学部では既に、学部、大学院の一貫した教育体系に講義とPBLを位置づけ、体系的なアクティブ・ラーニングを実施し、効果をあげている。全学実施にあたり、まず本学のアクティブ・ラーニングの再定義を行い、全学科のカリキュラム・マップにおけるアクティブ・ラーニング科目の配置確認を行った。次に、各学部・学科の学習・教育目標に基づき、講義科目とアクティブ・ラーニング科目の紐付け（グループ化）を実施している。さらに、各学科の育成する人材像と教育目標等を学生が理解するための初年次導入授業を定義し、複合的なアクティブ・ラーニング科目である、4年次の卒業研究等で教育目標が達成するような体系化を進めている。さらに、研修等を通じて授業のアクティブ・ラーニング化を促進させるとともに、講義での学生の学びの意欲を高めるため、学修マネジメント・システム（LMS）と連携した双方向システム（ネットワーク対応のクlickー）の導入整備を進めることで、授業のアクティブ・ラーニング化を推進している。また、留学生や海外留学の増加に対応するため、全学において国際通用性を備えたコース・ナンバリング体系を定義し、全科目のコードを作成して、平成28年度から試行を始めた。

(2) 学修成果の可視化と学生の学修時間のPDCAサイクルによる保証

学生の学修時間を増加し、保証するPDCAサイクルを構築するため、教育プログラムの設計段階（Plan）で、シラバスに予習、復習の具体的な記述を加えた。シラバス記載のためのシラバス・ガイドを作成し、全教職員が閲覧できるようにした。また、平成28年度は学修時間も明示するよう改修中である。実行段階（Do）では、アンケート調査およびe-Learning等の視聴時間等から学生の学修時間を測定する仕組みを構築中である。さらに、eポートフォリオに授業外学修時間の登録機能を追加し、運用を開始した。評価（Check）段階として、日本の工学教育の特徴である卒業研究の質保証を推進している。卒業研究の学修・教育目標の体系的設定を行い、全学科の卒業研究・総合研究等の科目において、ルーブリックを制定した。また、達成度評価基準と評価の点数化方法の策定を行っている。さらに、学修成果可視化のため、eポートフォリオの導入を進め、学生の学修時間のPDCAサイクルによる保証として、これまで本学で実施してきた学修ポートフォリオを拡充し、学生に対し、学修、キャリア、語学、プレゼンテーション・からなる総合的ポートフォリオ（SITポートフォリオ）を構築している。さらに、改善段階（Act）では、アンケート結果等を踏まえた、教職学（学生）協働のワークショップを実施し改善を進めている。

(3) 教育改革の推進体制の強化（教職学協働による学修の質保証）

教職員向け学内FD・SD研修プログラムとして、シラバスWS、授業デザインWS、ティーチング・ポートフォリオWS、学生主体の学び～WS等々を実施することで、教職員のモチベーションとスキルの向上策を実施している。また、FDerを増員するための実施訓練等を実施した。SCOT（Students Consulting on Teaching：学生による授業コンサルティング）制度を規定化し、学生視点による授業改善を進めている。FD・SD活動助成に、学生の主体的学びを促進する教育改善に関する助成を追加し、個々の授業における改善を進めてもらっている。また、教職学協働WSを開催することで、学生、職員、教員がそれぞれの視点で改革を進める体制をとっている。卒業生などアンケートの回答率向上のため、アンケートのWEB化を行った。WEB上にe-learningシステムで収録した授業コンテンツ教材等を整理し、教職員が閲覧できるようにした。また、アクティブ・ラーニングの相談や普及を推進する機能を持つ、アクティブ・ラーニング&アセスメント・オフィスをWEB上で開設し、運用を開始した。